

鉄道の廃線を調べて～安城と西三河の線路と駅の跡～

安城市立篠目中学校 2年4組 浅井 美奈巳

1.はじめに

名鉄の西尾地区や蒲郡線では乗客数が少ないため廃線の危機になるとニュースで知りました。私は時々電車を利用しますが、線路がなくなってしまうのは想像できませんでした。家族にその話をすると、すでに西三河地区で廃線になった部分があると教えてもらいました。

いつから鉄道は利用され、廃線後どうなってしまうのか気になりました。そこで、鉄道の歴史や廃線の場所を調べ、跡地を確認してみようと思いました。

2.安城市内の鉄道の歴史(現在の名称で記載しました)

1872年(明治5年)	日本最初の鉄道、横浜～品川開通
1888年(明治21年)	丁尺東海道線、安城区間開業①
1894年(明治27年)	安城駅開業
1923年(大正12年)	名鉄本線、安城区間開業② 同時に新安城駅開業
1926年(大正15年)	名鉄西尾線、新安城駅～米津駅開業③
1939年(昭和14年)	貨物線、南安城～安城開業 → 1961年(昭和36年)廃線④
1964年(昭和39年)	東海道新幹線開業⑤
1988年(昭和63年)	三河安城駅(新幹線・JR)開業



安城市的路線図

3.車と比較した電車のメリット

- 環境への負荷が少なく、地球温暖化対策につながる
自家用車と比較して、ひとりを運ぶのに発生するCO₂量は約1/8
- スピードが速い・時間通りに到着する(NAVITIMEで調査)

三河安城駅～名古屋駅	
	自家用車(35km)
CO ₂ 量	5027g
金額	1418円
時間	45分

三河安城駅～東京ディズニーランド	
	自家用車(338km)
CO ₂ 量	48969g
金額	12000円
時間	4時間11分

・安全性

2018年 鉄道事故件数 11件 (運輸安全委員会HP <http://www.mlit.go.jp/jtsb/>)
交通事故死者数 3532人

交通事故発生件数 430,601件 (警察庁HP <https://www.npa.go.jp/>)
電車と自動車では台数や交通量が異なるので、単純に比較はできませんが、レールを走る電車は、車と比較すれば安全性は高いと思います。

4. 西三河の廃線 (現地調査)

今回、4ヵ所の廃線跡を現地調査してきました。

[1]名鉄三河線碧南駅～吉良吉田駅

[2]名鉄三河線猿投駅～西中金駅

[3]安城支線

[4]新安城駅近くの線路



廃線の路線図

[1] 名鉄三河線 碧南駅～吉良吉田駅

- 戦前から開かれた海水浴場の最寄駅(玉津浦駅)もあり、にぎわっていた。
- 当時からレジャーに利用されていた。
- 地域の農産物や産業品の出荷に利用されていた。
- 貨物は1960年(昭和35年)がピークだった。
- 旅客は1966年(昭和41年)がピークだった。
- 碧南市にある旧大浜口駅～旧三河旭駅は、駅跡地を公園にして、線路のあった部分を2.3kmの遊歩道で結び碧南レールパークとして整備されている。



三河海線 廃線図
1926年(大正15年)～1928年(昭和3年)開業
2004年(平成16年)廃止

地図蔵(廃線路図) <https://japonyo.net/railways.html>

現地調査

碧南レールパーク



写真①



写真②

- 白いラインが線路の跡です。
- 駅があった場所は馬のホームのように段差になっている他、ベンチが置いてありました。

- 2018年(平成30年)3月にできた公園なので、とてもきれいでした。
- 自動車は入れないようになっており、遊具もありました。ウォーキングの人や、子供や親子で遊ぶ姿がたくさん見られました。
- 廃線跡地を公園にして有効活用することは、かつてまちの発展を支えた鉄道がこの場所にあったのだと、私たちの世代に伝える良いアイデアだと思いました。

[2]名鉄三河線 猿投駅～西中金駅

- ・1970年代(昭和40年代)に利用者が減少してきた。
- ・昭和50年代まで粘土などの貨物輸送もされていた。
- ・大雨で長期間不通の時期が何度もあった。
- ・西中金駅跡と三河広瀬駅跡の駅舎とホームは、歴史的景観をとどめるものとして2007年(平成19年)に国の登録有形文化財となっている。現在は、コミュニティバスが地域の足となっていたり、その位置がバス停になっている。どちらの駅跡も、市場など地域の方がイベントを行なうスペースになっている。
- ・三河御船駅跡は、ビニール屋根だけがあり、改札口もない、小さな駅跡だった。現在は小さな広場になっている。



三河山線廃線図
1927年(昭和2年)～1928年 開業
2004年(平成16年) 廃止

地図元(廃線路図)<https://japonyol.net/railways.html>

現地調査



西中金駅

初めて線路の跡や駅の跡を見ました。当時のホームの雰囲気が感じられました。駅名看板の文字が昔ながらの味のある字体で興味深かったです。



三河広瀬駅

駅舎もホームも当時のまま残っていました。駅舎の中に入ると、切符を買うところや、料金表、待ち合いのイスもそのまま残っていました。



三河御船駅

野球場や陸上競技場が近くにあります。父が高校生の時、部活の練習や大会で何度もここまで来たそうです。普段はほとんど人を見かけない駅ですが、大会やスポーツイベントがあると、駅員さんが臨時に改札をしていたそうです。そういう時は満員で乗れず、歩いて1駅先の猿投駅まで行なうそうです。

車好きが大

[3] 安城支線



昭和29年9月 地理調査所発行 1/50000 地図
(安城市図書情報館)



1939年(昭和14年)貨物線開業
1951年(昭和26年)旅客営業開始
1961年(昭和36年)廃止



航空写真

- ・1961年(昭和36年)に廃線になった。先に調べた三河線とは異なり、廃線後約60年たっているので、線路の跡ははっきりと残っていない。
- ・元々は貨物線で、現在のJR安城駅と名鉄西尾線の南安城駅が線路で結ばれていた。
- ・貨物輸送がきっかけで旅客営業も開始され、安城市内でJRと名鉄がつながっていた。
- ・祖母に聞くと、安城学園に通う同級生が利用していた記憶があるそうです。
- ・私が安城駅と南安城駅の間を歩くのは安城七夕祭りの時くらいですが、少し遠いと思うので、電車でつながっていれば便利だと思います。
- ・JR線路沿いの線路だった部分は、現在、駐車場になっています。

現地調査

- ・西尾線の土台がコンクリートから土に変わった部分から、土台の土部分が現在の線路より余計めになっています。それが別の線路があってカーブになっていた証拠だと 思います。現地を見て気付きましたが、上空写真を見るとよくわかりました。
- ・樹木で隠れている部分の土が、区切れたようになっています。そこが崖になって先(JR安城駅に行く方)は土を削ったのか低くなっています。線路があった名残だと 思います。



写真③



写真④

[4]新安城駅近くの線路

古い地図を調べたときに、新安城駅から西尾線とは別に、短い線路が出ているのを見つけました。1973年(昭和48年)の地図には書かれていましたが、同じ冊子の詳細図には記載はなく、すでに撤去されていたのだと思います。

線路の行き先には、現在、大きなマンションがありますが、かつては愛知紡績という工場でした。本で調べてもあまり詳しいことはわかりませんでしたが、紡績工場に入る貨物線だ、たようです。

線路のカーブに沿って、道路が残っているようです。住宅の敷地境界や住宅の間にある道(地図赤線を引いたところ)も、カーブになっていて、線路があった名残だと思われます。



昭和41年版安城市住宅明細図
(1966年) [安城市図書情報館]



昭和48年版ゼンリンの住宅地図安城市
(1973年) [安城市図書情報館]



現在の地図



現在の航空写真

現地調査

- 電車がカーブで曲がる時は、2本の線路に段差をつけ列車を斜めにして、曲がるそうです。
新安城駅近くの水路にコンクリートが残っていましたが、コンクリートの上部が斜めになっていたり、この上に線路がのっていたのではないかと思います。



写真⑤

- 父に聞くと、昭和50年代中頃に、写真的植木あたりは、コンクリートの壁だったそうです。
当時はまだ工場が残っていたと思われます。
その内側に線路があったのではないかと考えられます。



写真⑥

※名古屋市南区で見つけた風景

現地調査

- 父に変わった風景があると教えてもらい、現地に行ってみました。高架橋が所々残っており、その高架橋を屋根代わりに利用しているようでした。
- 調べると、これは廃線ではなく、JR(当時の国鉄)の貨物専用線路の計画だったのですが、財政難で中止されたものだとわかりました。



5.まとめ・感想

鉄道の歴史は古く、安城でも100年以上昔にはすでに使われていることがわきました。鉄道が開通する前の時代は徒歩や馬・船を使ったり輸送でしたが、鉄道の開通により、早く、疲れず、たくさんの人や荷物を、遠くまで運べるようになりました。

鉄道は人の移動手段と思つていましたが、荷物・貨物輸送のために設置されるところもあり、どちらも生活に欠かせないことを知りました。JRと名鉄の両方があり、それがつながっていたこともあります。安城でも、農作物や工業製品、その原材料などの輸送にたくさん利用されたと思います。都市部だけでなく、三河線のように海沿い・山間部までつながっていた鉄道は、明治・大正・昭和の、日本が発展する時代に、大切な役割を果たしていました。

1960年代からは、より自由に移動できる自動車による移動や輸送が増えました。同時に、都市部への人口集中と地方の過疎化も進みました。安城の地図を見ても、新しい道ができ工場が移転していました。地域が変化する中で、徐々に鉄道の利用が減っていきました。だと思います。ですが、廃線になってしまったのも、地域の方の大

切な場所として利用されていることも知りました。
電車は、中学生の私にとって便利で必要な交通手段です。学生や車に乗れない方、高齢者にとって大切な交通手段だと思います。自動車は便利ですが、交通事故・環境への負担など様々な問題が起きています。改めて、鉄道を利用し活用する価値があるのではないかと思いました。鉄道が地域の一員として、便利な移動手段として、大切に使われ続けてほしいと思いました。

ま
くろ
ば

す。
で
ぐ
すが、
真んが
ういの
もの様

